

○住民説明会の実施概要

実施日	参加者	内容	意見
令和7年6月26日	4名	・都市計画マスタープラン(素案) ・立地適正化計画(素案)	あり
令和7年7月17日	3名	・都市計画マスタープラン(素案) ・立地適正化計画(素案)	あり

【意見内容】

・自治会については、地域のコミュニティにとって大事な存在です。福祉や防災における自助・公助の面で拠点となると思います。特に災害時においては、自治会が拠点となって、市と連携することが大事になるかと思えます。そういった面での自治会の位置づけが必要ではないでしょうか。

・地域によっては、自治会の施設の整備ができていないところもあります。集会や災害時の一時避難場所としての役割もあるなか、施設整備ができていないと場所の提供ができません。施設整備についての位置づけはできないでしょうか。

・地域の拠点となる施設の複合化について。福祉、教育、自治会などの機能を1つの建物に集約することで、協力しやすくなります。また、予算が厳しい中、それぞれ管轄の補助を活用できるようになるのではないのでしょうか。複合施設のイメージは、経塚ゆいまーるセンターです。

【市からの回答】

自治会が地域の防災やコミュニティの役割を担っており、皆様からいただきましたご意見は、今後、市が発展していく上で大変重要な視点であると受け止めております。

都市計画マスタープランは、都市の将来像や土地利用の基本方針、主要な都市施設の配置方針など、長期的かつ市全域にわたるまちづくりの基本的な方向性を示すものです。そのため、ご提案いただいた自治会の運営や個別の施設整備といった具体的な内容を、このマスタープランに直接反映することは難しい側面がございます。

しかしながら、いただきましたご意見は、自治会に関する関係部署に共有し、今後の具体的な施策や事業を検討する上での貴重なご意見として活用させていただきます。今後とも、市政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○パブリックコメントの実施概要

実施日	参加者	内容	意見
令和7年6月24日 ～ 7月24日	-	・都市計画マスタープラン(素案) ・立地適正化計画(素案)	1名

【意見内容】

誰もが歩いて行ける範囲に、本を読んだり、気軽に相談できる「地域コンシェルジュ」のような機能を持つ拠点があると、子どもから高齢者まで安心して暮らせる持続可能なまちづくりに繋がります。
その実現のため、以下の点を提案します。

①地域拠点の整備と連携強化:

図書館職員だけでなく、ボランティアや民生委員、社会教育士などの専門人材が連携し、市民と行政が協働する仕組みを構築する。公民館などの社会教育施設は、LINE活用やキャッシュレス対応などで運営を柔軟化し、多世代が関わりやすくする。

②読書環境の重視:

沖縄県の「書店ゼロ」市町村が56%と全国最多である状況を踏まえ、文化発信拠点としての書店を支援し、連携を政策に明確に位置づける。公共図書館を地域の学びと文化の中核と捉え、専門職である司書の育成と、社会教育士との連携体制を強化する。

これからのまちづくりは、施設といった「モノ」だけでなく、人との関係性や幸福感(ウェルビーイング)を重視する視点が不可欠です。情報や文化へのアクセス、安心して相談できる環境、多様な価値観に触れられる読書環境こそが、住民の心の豊かさと地域の持続可能性を支える柱となります。浦添市がその先進的なモデルとなることを期待します。

【市からの回答案】

都市計画マスタープランでは「生涯学習の拠点」として、市立図書館をはじめ、美術館、てだこホールなどが立地する「カルチャーパーク」や隣接する「浦添運動公園」など、文化活動やスポーツ・レクリエーション活動などをおとした地域コミュニティの重要なエリアがあり、併せて、市役所や中央公民館といった行政機能や交流機能となる本市の中心拠点として位置付けております。

お寄せいただいたご意見は、今後、市が発展していく上で大変重要なものと認識しております。一方で、都市計画マスタープランは、将来の都市像や土地利用の基本方針など、市の長期的かつ骨格的な構造を示すものであり、ご提案いただいた図書館や公民館の運営、コミュニティ形成といった具体的な事業内容を直接的に計画に盛り込むことが難しい側面がございます。

つきましては、誠に恐縮ながら、今回のご意見をマスタープランへ直接反映することはできませんが、

お寄せいただいたご意見は、庁内関係部署へ共有し、今後の施策や事業を検討する際の貴重な参考とさせていただきます。